

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第一1:10~17 「同じ心」

[10]「さて、兄弟たち。私は、私たちの主イエス・キリストの御名によって、あなたがたにお願いします。どうか、みなが一致して、仲間割れすることなく、同じ心、同じ判断を完全に保ってください」

コリントの教会には仲間割れがあったが、パウロはそれを頭ごなしに叱るのではなく、「兄弟たち」と親しみと愛情をもって呼びかけ、「…お願いします」と一致を懇願する。これは福音に関する理解の一致、イエス・キリストに関する理解の一致のことである。このことにおいて教会は同じ心、同じ判断を完全に保たなければならない。→使徒信条 [11-12]「実はあなたがたのことをクロエの家の者から知らされました。兄弟たち。あなたがたの間には争いがあるようで、あなたがたはめいめいに、『私はパウロにつく』『私はアポロに』『私はケパに』『私はキリストにつく』と言っているということです。」クロエはパウロやコリント教会の人々が信頼できる人物であり、その家の者からパウロは教会での争いについて報告を受けた。彼らはそれぞれ指導者を祭り上げて分裂していた。パウロはコリント教会の基礎を据え、アポロは雄弁であり、ケパ(アラム語)は12使徒の代表格ペテロのこと。

[13]「キリストが分割されたのですか。あなたがたのために十字架につけられたのはパウロでしょうか。あなたがたがバプテスマを受けたのはパウロの名によるのでしょうか」このことばはアポロやケパの場合にも当てはまる。十字架につけられたのはパウロやアポロやケパではなくバプテスマ(洗礼)を受けたのも彼らの名によるのではない。十字架につけられたのはキリストであり、バプテスマを受けたのもキリストの名によってであった。道であり、真理であり、いのちであるお方、救い主であるお方はただ主キリストのみであり、キリストの名によってバプテスマを受けるといことはキリストに属するものであることを明確にする。それは他の人物の名であってはならないのである。

[14-16]「クリスポ」はコリントのユダヤ人会堂の管理者で家族をあげて主を信じた人物。→使徒18:8「ガイオ」は教会の家主であった人物。→ローマ16:23「ステパナの家族」とはコリントのあるアカヤ地方で最初に主を信じた人々。→Iコリント16:15 このようにパウロはコリントにおいてごく少数の人々にしかバプテスマを授けなかった。そしてそれを感謝している。そのわけは、パウロからバプテスマを受けたと誇る人々が出てくる可能性があり、それは争い、分裂の原因となるからであった。

[17]「キリストが私をお遣わしになったのは、バプテスマを授けさせるためではなく、福音を宣べ伝えさせるためです」これがパウロの使命の中心であった。

「それも、キリストの十字架がむなしくならないために、ことばの知恵によってはならないのです」まことしやかな作り話や人を欺く哲学などによってではなく、キリストの十字架の福音によって人は救いに入れられる。パウロはその点を最も強調している。このような使命感に立つパウロにとってコリント教会の仲間割れや争いは決して見過ごすことのできないことであった。それゆえ一致、同じ心、同じ判断を保つことを彼らに求めるのである。